

訪問看護新聞

6月号

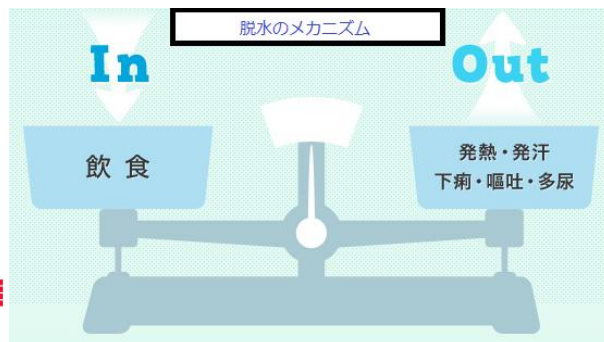


脱水が引き起こす「脳梗塞」

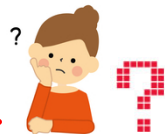
脳梗塞は寒い時期の冬に多い
と思っていましたが、夏に多い
のですか？



冬の脳卒中の増加に対して、夏は脳梗塞が増加するんですよー。
夏は気温上昇で体温も上がるため、体内の熱を発散しようと血管
が拡張すると血圧が低下します。そして、汗をかくことで水分が
不足して血液が濃くなり、脳血管が詰まりやすくなります。つま
り、夏の脳梗塞は、体内の脱水症状が引き金になることが非常に
多いのです。



では冬は…



冬に多い脳卒中は「脳出血」と「くも膜下出血」です。
冬は体内の熱を放散しないように血管が収縮するので血
圧が上昇し、血管が破れやすくなるからデス。

注) 脳卒中は、脳の血管が破れる、あるいは詰まることにより、その部分の脳の働きが失われてしまう病気の総称です。



「脳梗塞」に関するクイズ～

【Q.】 夏は脱水症状により、脳梗塞が起こりやすいということはわかりましたね。
では、脳梗塞の説明として正しいものは次のうちどれでしょう～？

- (1) カラダの麻痺といった症状は少しずつ現れて、だんだんと悪化していく
- (2) カラダの半身が動かない、脱力といった症状が現れた後、回復しても病院を受診する
- (3) カラダの麻痺やしびれ、呂律が回らないといった症状が出たら少し様子を見てから救急車を呼ぶ

答えは…

(2)カラダの半身が動かない、脱力といった症状が現れた後、回復しても病院を受診する **デス**



前兆を見逃さないで！！

「半身が動かない」「脱力」といった脳梗塞特有の症状が出た後、しばらくすると回復するようなことがあります。これが一過性の発作です。



この時に「症状が消えたから治ったんだ～」と考えて、病院に行かずに放置するのは

カラダの麻痺 **しびれ** **呂律が回らない** といった症状が出たら、様子を見ている場合ではありません。

脳梗塞は早ければ早いほど治療の結果が良いのです。発症から 4.5 時間以内の「超急性期」であれば、脳の血栓を溶かす血栓溶解療法を行うことができます。この治療で効果ができれば完全に症状が消える可能性もあります。ところが、この治療は「超急性期」を過ぎると効果が落ちるため、行うことができなくなります。

脳梗塞治療は、時間との闘い です！！